

ラム（略して「イモプロ」）をみんなで考えました。イモを使ったアートやイモころがし、玉入れならぬ「イモ入れ」など、とてもユーモアのある意見に場の空気が和み、常に笑いが絶えませんでした。

みんなで汗を流してイモを収穫し、それをみんなで美味しく味わい、さらに、様々な意見交換ができて、大変有意義な時間を共有することができました。今後もBUC事業等に積極的に参加し、他の参加者との情報交換等、交流を深めていきたいと思えます。

寄稿者：安田 匠（HCA会員／公務員）

《べんり アイテム紹介》

このコーナーは指導者の皆さまが愛用している便利なアイテムや教材を紹介し、皆さまの投稿をお待ちします！

NO.001【ねりピタ】

・ポスターや紙などを掲示したいのに、アウトドアの活動では黒板やホワイトボードがない！ということがしばしばあります。そんなときは【ねりピタ】がお勧めです。粘土の様な感触で、指でちぎって丸めてペタリと貼るだけです。窓や壁、木にも貼れる優れものです。ある指導者が愛用していたのを初めて見たときは「なんて便利なんだ！」と驚きました。



投稿者：(ニックネーム)：ニャンちゅう

秋田県キャンプ協会20周年事業参加

10月25日（土）～26日（日）、アキタパークホテルにて秋田県キャンプ協会創立20周年事業が行われ、北海道キャンプ協会からは相馬副会長、秋葉常任理事、岩崎事務局長、下川原会員、田村会員、私、上木の6名が参加しました。

秋田県キャンプ協会の大友会長による記念講演「今伝えておきたいこと～人生その周辺～」では「縁」「運」「恩」の3つの言葉や、ラルフ・ワルド・エマーソンの言葉などのお話をいただきました。記念式では大友氏の挨拶、星野日本キャンプ協会会長の祝辞、二十歳のアルバム（20年の足跡）の上映などが行われ、祝賀会では思い出スピーチや秋田の皆さんによる協会歌の披露などがありました。秋田県キャンプ協会に携わってきた会員がそれぞれ思いを綴った記念誌や貢献した方や団体への感謝状の贈呈など、県内のたくさんの会員との交流のなかで秋田県キャンプ協会のユニークさや情熱など、たくさんの思いを感じることができました。

報告者：上木祐弥（NPO 法人冒険クラブ）

平成26年度 北海道キャンプ協会主催 BUC（ブラッシュアップ&コミュニケーション）事業のご案内

「レクリエーションの技を学ぶ」

レクゲームでの導入や仲間づくりにと様々な利用の仕方を学び、プログラムやキャンプなどのアクセントに利用してみませんか？また、簡単なクラフトなどのゲーム以外の活動も行う予定です。

「宿泊できるイグルーを作ろう」

イグルーを知っていますか？宿泊できる冬の家づくりの技術を学びましょう♪

両事業共、詳しくは別紙をご参照ください

北海道キャンプ協会

〒047-0155 小樽市望洋台 2-14-1 望洋ガ イルツ (特)自然教育促進会内 担当：安原、岩崎
お問合わせ TEL 0134(52)3240 FAX 0134(51)5667
E-mail office@hokkaidocamp.com
URL <http://www.hokkaidocamp.com/index.html>



北海道キャンプ協会 かわら版

2014. 12. 1

北海道キャンプ協会 発行

皆さまとつくる北海道キャンプ協会あれこれ

～新しい紙面によせて広報担当からのお願い～

この「かわら版」を手にとられた会員の皆さまは、「あ、ページ数が増えた！」とお気づきになられたと思います。また「この2年間で少しずつ指導者養成や啓発・会員交流の機会が増えたな～」と気づいた方もおられるのではないのでしょうか。これらのより良い変化は、2012年に当協会の設立20周年事業を機に若い会員がボランティアスタッフとして運営に参画したことに起因します。彼らは、20周年事業後も指導者養成事業や啓発・会員交流事業、広報、事務局のサポートスタッフとして各活動を支援し続けて今日に至っています。例えば、「かわら版」のページ数増や各種事業は彼らの発案であり、実際の運営作業も行っています。その他にもホームページの充実化に取り組む会員、指導者講習会やBUCの講師として自らの資格を活かしている会員もいます。ボランティア会員組織の当協会としては、今後の協会運営を担っていく若い力は何よりの宝です。現在全国の多くのキャンプ協会で会員数の減少傾向が見られますが、当協会はそのようなことはありません。これも一重に会員の皆さまが継続して当協会を支えていただいているからにほかなりません。また、若い力の存在がこれからの協会活動をより充実したものに導いてくれると信じています。

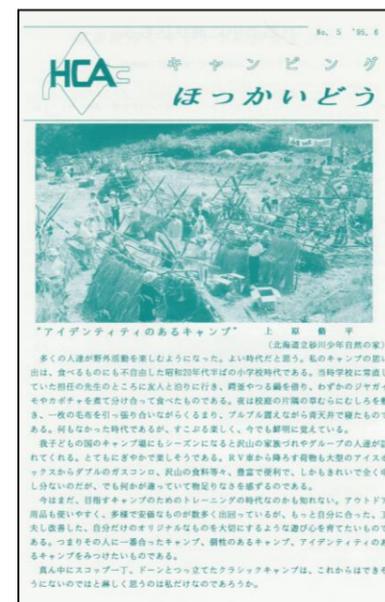
そこで更なる発展を目指し、本誌面をかりて設立時から関わった者として、また広報担当として会員の皆さまにお願いをしてみたいと思います。少し真面目な話になりますが、今しばらくお付き合いください。北海道キャンプ協会は組織キャンプの指導者有志によって設立された非営利の任意団体です。従ってそこには社会的使命があり、当協会の設立趣意書には、「キャンプを通じて、道民の心身の健康増進を図ると共に、人と自然の調和を求め、合わせてキャンプのあり方を探求すること」と述べられています。現在のかかわら版は会員の方々へ活動報告やイベント情報などをお伝えすることが主たるねらいとなっています。しかし設立時の原点に立ち返ってみると広報の対象は会員の皆さまだけでなく、より広く道民の方々を視野におき、広報ツールを活用したキャンプに関する情報提供や啓蒙活動を目指さなくてはならないと思

います。実際過去には、キャンプ活動に関する寄稿文・キャンプ豆知識（技術や図書等）・活動報告・イベント情報を記載した4～6頁構成の「キャンピングほっかいどう」を編集発行した時期もありました。お願いというのは、「広報誌の発信手段と紙面づくりに皆さまのお力を貸してください」というものです。今回の「かわら版」から会員以外の一般市民の方々へも北海道キャンプ協会の活動を理解していただく機会として、ある町の市民情報コーナーに「かわら版」を置かせていただけることになりました。

ご自身の所属団体や地域の情報コーナーに「かわら版」を置いてもいいよ！！という方がおられましたら是非事務局までご一報ください。また、キャンプに関する寄稿文や情報等がありましたらこちらでも事務局へご連絡ください。北海道キャンプ協会は会員一人ひとりによってつくられる組織です。

寄稿・投稿・報告などなど「会員の皆さまからの声」をお待ちしています。

文責：粥川道子（広報担当理事）



「アイデンティティのあるキャンプ」 上原 勲 著
多くの人が野営活動を楽しむようになった。その時代と違う。私のキャンプの思い出は、食べ物の不自由な昭和初期半ばの小学校時代である。当時学校に用意していたお弁当の先食のころに友人と取りに行き、隠れて食べるのが楽しみだった。お弁当のジャガイモやオクラを煮て分け合っていたものだ。遠くは親戚の片岡の母にむかしを頼る。一枚の毛布を引っ張り合いながら、ブルブル震えながら夜更けまで寝たものだ。何もなかった時代であるが、すこぶる楽しく、今でも鮮明に覚えている。
後子どもの頃のキャンプ場にもシーズンになると親山の家族連れやグループの人数が訪れてくる。とてもにぎやかで楽しそうである。取り巻く雑音も雑音も大抵のアイデンティティのあるキャンプの思い出。親山の自然環境も、貴重な環境だ。しかも無料で利用できるのだが、でも何か違っていて動揺するものがある。
今はまだ、目指すキャンプのためのトレーニングの時代なのかもしれない。アウトドア用品も安いし、多様な装備品も豊富に揃っている。もっと自分合った、工夫し改善した、自分だけのオリジナルなものを大切にするような遊び心を持ってほしい。つまりその人に合わせたキャンプ、個性のあるキャンプ、アイデンティティのあるキャンプをみつけたいのである。
真ん中にスコップで、ドンと立つてきたテラリックキャンプは、これからはできなくなっていくのではと懸念している。それは私だけのことでありたい。

指導者養成担当より

北海道初！キャンプディレクター2級養成講習会

北海道キャンプ協会の主催でキャンプディレクター2級養成講習会が行われました。これまでは日本キャンプ協会がこの講習会を主催し、全国各地を会場にディレクターの養成を実施してきましたが、今年度からは各支部が主催となりディレクター2級講習会を企画・運営できるよう制度が変更。また同時に、これまでPD・MDの二段階としていたキャンプディレクター2級を統合して一本化するよう制度が変更されました。この制度変更元年に北海道キャンプ協会はいち早く、ディレクター2級講習会を主催するという新しいチャレンジに踏み切りました。(今年度のディレクター2級講習会開催支部は7支部です)

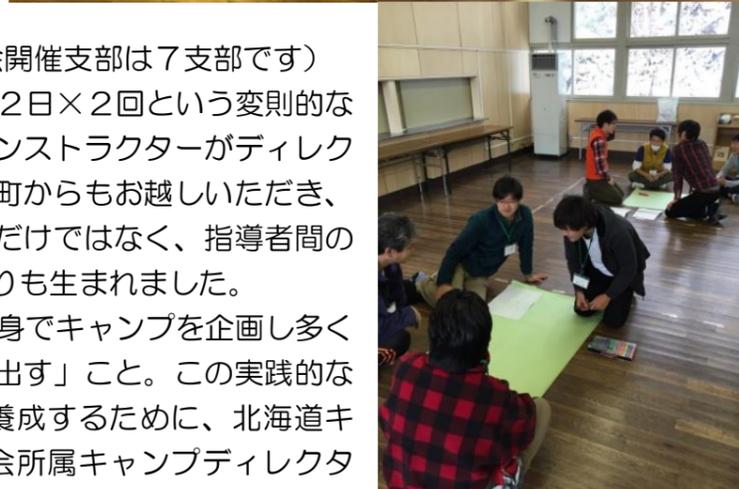
会場やスタッフの都合により、今年度は1泊2日×2回という変則的な運営となりましたが、合計11名のキャンプインストラクターがディレクター2級を目指して参加。遠くは小平町や安平町からもお越しいただき、ディレクターとしての知識や理論、技術の向上だけではなく、指導者間の情報交換や交流も積極的に行われ新たなつながりも生まれました。

キャンプディレクター2級の役割は、「自分自身でキャンプを企画し多くの人にキャンプの楽しさを体験する機会を創り出す」こと。この実践的な

指導者を養成するために、北海道キャンプ協会所属キャンプディレクター1級の講師陣総勢7名+運営スタッフ4名にご協力いただきました。大学教授から組織の長、キャンプ指導の実践者など幅広い講師陣の講話はキャンプへの意識をより高める機会にもなったことでしょう。

キャンプディレクター2級の合否発表はこれからですが、1名でも多くのキャンプディレクター2級が誕生することを心より祈っております。北海道キャンプ協会では、このディレクター2級養成講習会を今後も隔年実施する予定でおります。次回の開催は、2016年度です。今回の講習会の運営で感じたこと。それは北海道キャンプ協会の組織力を更に高めることができれば、より質の高い講習会を企画・運営することができるのではないか！ということです。指導者養成事業やBUC事業の実施をともし会員同士、指導者同士、顔の見える関係を作り上げていきませんか？

担当：山田憲克（公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）



啓発活動・会員交流担当より

今年度より開催しました指導者交流会♪

初年度ということもあって担当者としては「集まってくれるかな」と少し不安もありましたが、会員のご家族や興味のある方など20名の方に集まってくれました。忙しい中でもいつでもOKという気軽さでほとんどの方が19時くらいに現地入り♪その前に用意していたプログラムも含めてそのまま交流会となりました。まずは簡単に工藤理事のお話や参加者の自己紹介などから始まり、シャコをみんなでむいて食べ、マジックポムで遊び、それぞれが縛りのない集まりを作って思う存分交流を深めていきました。そんな時間はあっという間！気がつくともう2時間経過。簡単に各支部のお話やキャンプ協会について最後は皆さんでお話をして10時で交流会は終了♪そのまま2次会、宿泊していただいた方もおりましたが、皆さん活動があって朝からそれぞれの活動場所へ出発していきました。こんな思いを語れて、仲間を見つけ、自分の時間の許せる範囲での集まり。すごくいい感じでした。参加者からも「ぜひ来年も！」という声上がりスタッフもうれしい限りです♪

担当：二杉寿志（おたる自然の家）



北海道キャンプ協会主催 BUC 事業「いも掘り体験とプログラム」

9月23日（火・祝）、滝野自然学園にて BUC 事業を実施しました。今回はじゃがいもの収穫体験と、いも掘りプログラムの可能性についての意見交換を行いました。天候にも恵まれ、10人の参加をいただいて事業しました。

いも掘り体験では、じゃがいもの品種や掘り方講習の後、実際に鍬を使って土を掘り起こし収穫を行いました。その後はとれたてのじゃがいもでいも餅作り。指導者ならではの手際の良い調理が光っていました。また、何よりもその調理作業が参加者の交流の時間となっていた様子で、楽しい雰囲気印象的でした。いも餅の



ほか、スタッフ特製の汁物やその他のいも料理も含めて、できたての料理を堪能していただきました。

午後の活動では、「じゃがいも」、「農業」、「土」プログラムの可能性について、相互に意見を出し合い活発にアイデアが飛び交う時間となりました。

参加者からは、「土に触れるだけで、賢沢な時間となった」、「会員同士の交流を深められる機会となった」などのご意見をいただきました。今後も参加者のニーズを捉えたBUC事業を企画実施していきたいと思えます。

担当：山田啓貴（公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）

参加者の声

滝野自然学園で開催された北海道キャンプ協会主催のBUC事業に参加してきました。内容はイモ掘り体験ということで、私にとっては小学生以来の体験。とても楽しみにしていました。当日、とても爽やかな秋晴れの下、他の参加者と一緒に鍬を使って、イモ掘りをしました。鍬で土を掘り起こすと、元気なイモがゴロゴロとたくさん姿を現しました。昼食は、みんなで掘ったイモをフライドポテトとイモ餅にいただきました。これがまた大変美味しく、あっという間に完食でした。昼食後は、イモを使ってできそうなプログ